

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

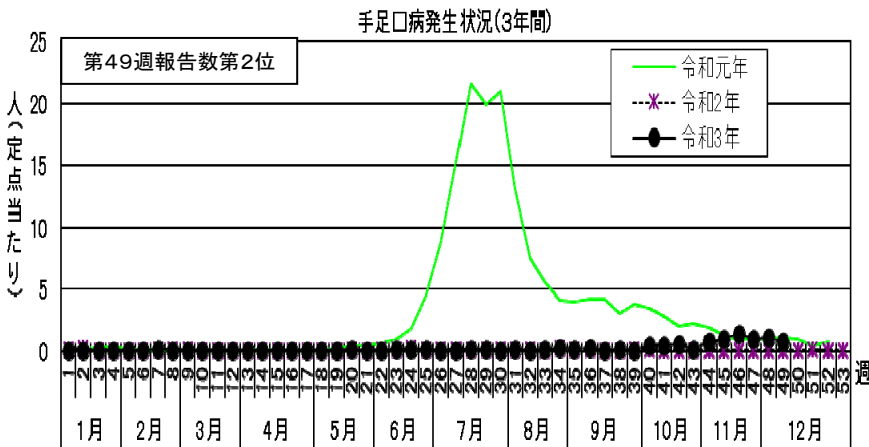
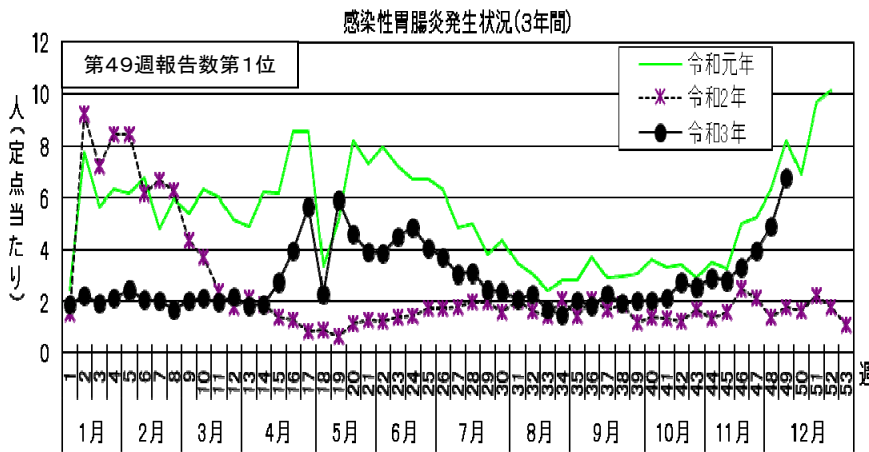
令和3年12月6日（月）～令和3年12月12日（日）〔令和3年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.76人と前週（4.92人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は0.78人と前週（1.05人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.70人と前週（0.76人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



ノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました！

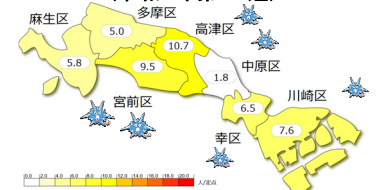
感染性胃腸炎は、例年秋から冬にかけて報告数が増加しますが、昨年は新型コロナウイルス感染症の流行の影響により激減しました。しかし今年は、川崎市においても、秋頃から徐々に報告数が増加しており、神奈川県においては、令和3年12月6日にノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました。

感染性胃腸炎は、主にノロウイルス、エンテロウイルス、ロタウイルスなどのウイルス感染により引き起こされます。特に冬季に流行することが多いノロウイルスは、エタノールや逆性石けんなどの消毒剤はあまり効果がないため、次亜塩素酸ナトリウムを使用し、嘔吐物や便は適切に処理するようにしましょう。

次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法

食器、カーテンなどの消毒や拭き取り	製品の濃度	希釈倍率	水3L	ペットボトルキャップ(約5mL)
	12%	⇒ 600倍希釈 (水3Lに対して5mL)		
	6%	⇒ 300倍希釈 (水3Lに対して10mL)		
	1%	⇒ 50倍希釈 (水3Lに対して60mL)		
嘔吐物等の廃棄 (廃棄物は袋の中で浸す)	12%	⇒ 120倍希釈 (水3Lに対して25mL)		
	6%	⇒ 60倍希釈 (水3Lに対して50mL)		
	1%	⇒ 10倍希釈 (水3Lに対して300mL)		

川崎市における感染性胃腸炎区別流行状況 (令和3年第49週)



川崎市における感染性胃腸炎発生状況(5年間)

